



# IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals



2022年12月

ISSUE #36



中南米地域大会でのIRPA 関連学会フォーラム（16か国から45名が参加）

## 目次

会長のブログ	- 2
AFRIRPA 06会議の概要	- 4
韓国・日本・中国の若手による合同YGNワークショップ	- 7
中南米地域大会の概要	- 8
放射線防護の教育・訓練に関する国際会議 ETRAP	- 11
エジプト放射線物理2022セミナーにおける放射線防護活動	- 13
今後開催される行事	- 16

翻訳: 桧垣 正吾、藤田 博喜、監修: 藤通 有希、佐々木 道也

この"IRPA会報"の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

Translated by Syogo Higaki and Hiroki Fujita, and reviewed by Yuki Fujimichi and Michiya Sasaki.

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

# 会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN

IRPA会員の皆様、RP仲間の皆様、

2022年の終わりを迎えるにあたり、この1年のIRPAの活動について最初の評価をする機会を得ました。この1年、私たちは地域大会で再び対面で会うことができ、大変嬉しく思っています。2月のセントルイスでのIRPA北米地域大会に始まり、5月のブダペストでの欧州地域大会、10月のアクラでのアフリカ地域大会、そして10月のサンティアゴでの中南米地域大会と、この1年間、私たちは対面で再会することができました。各イベントで、再び皆様にお会いし、お話を伺い、直接話し合う機会を持てたことを大変嬉しく思っています。また、多くのIRPAタスクグループの1つに参加するすべての機会を共有することもできました！

私は常々、IRPAの真の成功である若い世代の積極的な取り組みに注目しています。特にこの1年間の会合では、それぞれ若手専門家に焦点を当てたイベントが開催されることで、それが顕著に表れました。また、各種の若手専門家賞の受賞者には、2024年にオーランドで開催されるIRPA16の無料登録権が与えられたので、会場で全員が一堂に会することを楽しみにしています。



**Bernard会長とAna-Maria Bomben氏**  
(IRPA理事)、中南米地域大会に参加した  
チリの仲間たち

また、バンクーバーで開催されたICRP2021+1にも積極的に参加していただき、大変嬉しく思います。私たちは、放射線防護の専門家の声として多くのセッションに参加することができました。シンポジウムでは毎日、放射線防護の体系を洗練させること、若手専門家のネットワークをどう始めるか、NORMに関する活動などについて会員の意見を発表しました。また、リスクコミュニケーション、放射線とリスクに関する市民への関与、さらに、実用性と保守性のバランスをどうとるかについても意見を交換することができました。このような努力と、IRPAに蓄積された膨大な知識と専門性を、私たち全員が誇りに思うべきでしょう。



# 会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN



ICRP 2021+1にて、Werner Rühm（ICRP委員長）とBernard会長 - 2人の間には長い友情と大きな尊敬の念があります



ICRP 2021+1で発表するBernard会長、Sylvain Andresz氏 (IRPA YGN), Cameron Jeffries氏 (IRPA 理事)

2023年は、インドのムンバイで開催されるアジア・オセアニアIRPA会議で始まります。多くの皆様にお会いできることを願っています。1月には次のIRPAウェビナーも開催され、NORM、放射線防護体系、非電離放射線などのいくつかのタスクグループで実施されている活動の詳細を紹介します。素晴らしいプログラムになることをお約束します！

しかし、私は自分自身を先取りしているようです。2023年を迎える前に、素晴らしいホリデーシーズンと最高にハッピーな新年をお迎えください！



中南米地域大会でのBernard会長とパネリスト



# AFRIRPA 06 - アクラ（ガーナ）

JOSEPH AMOAKO



"Embracing Radiation Protection Education and Safety Culture（放射線防護教育と安全文化の受け入れ）"は、IRPAの第6回アフリカ地域大会のテーマでした。この大会は、2022年10月10日から13日までガーナのアクラにある、ラ・パーム・ロイヤル・ビーチ・ホテルで開催されました。ガーナ放射線防護学会（GARP）がIRPAおよび国際原子力機関（IAEA）と共同で主催し、世界保健機関（WHO）が共同スポンサーになりました。

ガーナで地域大会が開催されるのは今回が初めてで、放射線防護とその関連業務に携わる100人以上の専門家が集まりました。参加者は、研究者、規制当局者、学生、若手専門家、国際機関や国際学会の代表者などでした。参加者の多くはアフリカ諸国からで、約50%がガーナから、残りはナイジェリア、カメルーン、ケニア、南アフリカ、アンゴラ、コートジボワール、スーダンからの参加者でした。また、フランスやハンガリーからも参加者があり、希望者はバーチャル参加も可能でした。また、IAEA、WHO、IRPA、UNSCEAR、AFAN、Proman、ESPP、国連欧州経済委員会などの国際機関からも参加者がありました。

本大会では、対面式、バーチャル、事前録画式などのハイブリッド方式を採用し、口頭発表、ポスター発表、パネルディスカッション、学会フォーラムなどの学術プログラムを実施しました。学術プログラムは、4日間の大会期間中、オンラインでライブ配信されました。



AFRIRPA06のオープニングセレモニーでの参加者と要人の集合写真





# AFRIRPA 06 - アクラ（ガーナ）

JOSEPH AMOAKO

オープニングセレモニーでは、以下の方々による挨拶が行われました。

- Cyril Schandorf教授（大会長）
- Quayson氏（ガーナ環境・科学技術・イノベーション省代表）
- Bernard Le Guen博士（IRPA会長）
- P. Johnston氏（IAEA代表）
- Francis C. Kasolo博士（WHOガーナ代表）
- Samuel B. Dampare教授（ガーナ原子力委員会事務局長）



WHOガーナ代表 F.C. Kasolo博士



ガーナ・アクラのラ・パーム・ロイヤル・ビーチ・ホテルで開催されたAFRIRPA06大会



AFRIRPA06の学術セッションの座長と大会長

会議の主テーマは以下の通りでした。

- 環境放射線防護
- 医療における放射線防護
- 自然起源放射性物質（NORM）およびラドン
- 放射性核種の外部および摂取のモニタリング
- 安全文化
- 非電離放射線
- 規制と基準
- 研究炉施設向け放射線防護プログラム
- 放射性廃棄物管理



# AFRIRPA 06 会議の概要 - アクラ（ガーナ）

JOSEPH AMOAKO

厳しい学術発表から一息ついて、参加者同士が交流しネットワークを構築できるように、リフレッシュとエンターテインメントのアクティビティを計画しました。ウエルカムレセプション、コーヒーブレイク、ガーナ原子力委員会の研究所や施設の見学、アクラ市の中心部へのツアーなどが行われました。



今回の大会のハイライトの一つは、若手専門家のための学術セッションでした。このような会議では、放射線防護の分野における若い才能を発掘し、奨励することを目的として、この特集が組まれています。若手専門家たちは、会議のさまざまな分野の論文を提出し、自分の研究を紹介しました。若手専門家賞は、カメルーンのMbarndouka Taamté Jacob氏の発表「地元で製造された低価格のスマート電子機器を用いた屋内ラドンと環境線量率の測定と基準機器による検証」に授与されました。

AFRIRPA06は、参加者のネットワーク作り、意見交換、そしてアフリカにおける放射線防護の実践向上に向けた放射線防護教育や安全文化に関する関連事項の強調と議論のためのユニークな機会を提供しました。主催者であるGARPは、多くの関係者の協力を得てAFRIRPA06を成功裏に開催し、ガーナに参加者をお迎えできたことに感謝するとともに、ナイジェリアとカメルーンが次のアフリカ地域大会（AFRIRPA07）を開催することを希望しています。

AFRIRPA06が残したレガシーが、人類と社会のために、アフリカ大陸における放射線防護の教育と実践における協力と経験の共有を促進することを期待しています。





# KARP-JHPS-CSRП 合同YGNワークショップ

河野 恭彦、三輪 一爾、RUI QIU, YEON SOO YEOM



2022年10月27日、韓国、日本、中国の若手専門家による合同ワークショップを開催し、最近の研究活動の成果を共有しました。アジア各国の若手放射線防護研究者、技術者、学生を含む30名以上が参加しました。以下のテーマで5つの興味深い研究発表があり、その後、刺激的なディスカッションが行われ、若い参加者全員の経験に貢献しました。

## タイトル

## 講演者

中性子線・ガンマ線検出チップの開発

Yang Liu (CIAE、中国)

ICRPタスクグループ113の進捗状況：一般的な診断用X線画像検査に対する参照線量係数

Yeon Soo Yeom  
(延世大学校、韓国)

中国における4次元線量計算の確立と初適用

Ri Zhao (CIRP、中国)

韓国のレトロスペクティブ線量評価ネットワークにおける実験室間比較のための事故時線量評価に関する実地実験

Hyoungtaek Kim (KAERI、韓国)

広島市における原爆投下後の早期入市者の固形がん死亡率：1970-2015年

廣田 誠子 (広島大学、日本)

地域的であれ世界的であれ、放射線防護の未来は若手専門家の貢献にかかっています。アイデア、経験、成果を共有し、良い関係を築くことは、この仕事にとって不可欠です。そのため、IRPAとその関連学会の支援を得て、今後もこのような地域的または国際的なイベントを続けていきたいと考えています。

# IRPA中南米地域大会 (チリ・サンティアゴ)

ANA MARIA BOMBEN

2022年10月23日から27日にかけて、第12回中南米地域大会および第10回IRPA中南米地域大会がサンティアゴ（チリ）で開催されました。本大会は、チリ放射線防護学会（SOCHIPRA - <https://www.sochipra.cl/>）



が主催し、IRPA、IAEA、PAHO-WHO、UNSCEAR、FORO、FRALCなどの国際機関とチリ原子力委員会（CCHEN）などのチリの国内組織の協賛を得て、開催されました。会場は、サンティアゴのダウンタウンにある歴史的建造物、チリ・カトリック大学でした。

大会のプログラムは、放射線防護、放射線安全、安全文化、イノベーションと技術の4つのトピックスからなり、メインテーマは” Radiation Protection: Adapting to New Scenarios（放射線防護：新しいシナリオへの適応）”でした。

## 数字で見る大会

現地組織委員会の委員長はPablo del Río López氏が務め、チリの仲間たちで結成されたチームを率いました。国際委員会は、16か国の専門家、地域の放射線防護学会および会議を後援した国際機関の代表者によって構成されました。中核となる学術委員会がプログラムを作成し、各国から集まった50人の専門家と協力して要旨を審査しました。

21か国（アルゼンチン、オーストリア、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、エクアドル、フランス、グアテマラ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、スペイン、ウルグアイ、米国、ベネズエラ）から296名が、また、15の放射線防護学会から会長や代表者が大会に参加しました。

大会は、8つのプレナリーセッション、10のテクニカルセッション、10のラウンドテーブル、103の口頭発表（発表者の51%が女性）から構成された27の学術セッション、48件のポスター発表から構成された6の電子ポスターセッションとで構成され、それぞれの朝の最初のセッションとして9つのリフレッシャーコースが提供されました。



21か国からのIRPA中南米地域大会の  
参加者





# IRPA中南米地域大会 (チリ・サンティアゴ)

ANA MARIA BOMBEN

IRPAの旗は、Bernard Le Guen IRPA会長とのAna María Bomben IRPA理事を通じて、多くの大会活動で振られました。Bernard Le Guen会長は、開会式と閉会式に招待され、挨拶を行いました。また、プレナリーセッションでは「放射線防護体系のレビュー」についてプレゼンテーションを行い、関連学会フォーラムの座長を務め、FORO (Ibero-American Forum of Radiological and Nuclear Regulatory Agencies) の代表者との会議にも参加し、相互の関心事について議論しました。

中央がBernard Le Guen氏 (IRPA会長) とAna María Bomben氏 (IRPA理事)、Raúl Ramirez氏 (IAEA代表、右から3人目) と大会現地組織委員会



IRPAは、モンリオール基金を通じて、学術委員会が口頭発表として受理した論文の主執筆者である8名の若手専門家 (35歳以下) の大会参加に対して、一部資金援助を行いました。選ばれた8名の若手専門家は、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、コロンビア、キューバ、グアテマラからの参加者でした。

大会では、各国の放射線防護学会が推薦した8か国 (アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、キューバ、グアテマラ、ドミニカ共和国) 12名の参加者による若手専門家賞が実施されました。審査員は、参加者の論文と口頭発表を評価し、全会一致で以下の賞を決定しました。第1位 : Fiorela Merma氏 (アルゼンチン)、第2位 : Ignacio López氏 (チリ)、第3位 : Arismendy Portorreal氏 (アルゼンチン)。Arismendy Portorreal氏 (ドミニカ共和国)。



若手専門家賞の参加者と審査員4名  
Enrique Viveros氏 (SOCHIPRA会長)、Ana María Bomben氏 (IRPA)、Pablo Jiménez氏 (PAHO)、Juan Carlos Mora氏 (IAEA)



Bernard Le Guen会長がFiorela Merma氏 (アルゼンチン) に第1回若手専門家賞を贈呈



# IRPA中南米地域大会 (チリ・サンティアゴ)

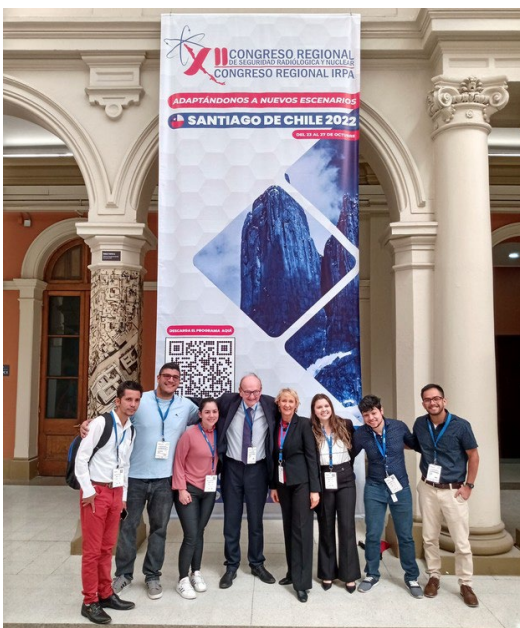
ANA MARIA BOMBEN

IRPAの地域大会および国際大会では、IRPA 関連学会フォーラム (ASF) が非常に重要な活動として位置づけられています。中南米地域大会では、ハイブリッド方式でASFを開催し、ラテンアメリカ・カリブ海地域の放射線防護学会の会長または代表を含む16か国から45名が参加しました。また、スペイン放射線防護学会は、バレンシアでIRPA17 (2028年) を開催するため、招待されました。

ASFは、Bernard Le Guen会長による歓迎とIRPA戦略計画2021-2024に関する発表で始まりました。IRPA 若手専門家ネットワーク (YGN) からは Marina Saez Muñoz氏 (IRPA YGN Secretary) が参加し、YGN 戦略的アジェンダ 2022-2024 をスペインからバーチャルで発表しました。米国オーランドで開催されるIRPA16 (2024年) についての発表と、タスクグループ議長であるMarina Di Giorgio氏によるIRPA Task Group on Women in Radiation (WiR) - ジェンダーの視点からの短い発表がありました。

ASFの最後には、コロンビア放射線防護学会 (ACPR) のCarolina Viloría Barragan会長から、2026年にコロンビアのメデジンで開催される次回のIRPA中南米地域大会へのACPRのプロポーザルについて発表がありました。

大会最終日はプレナリーセッションで幕を開け、キューバのRubén Ferro氏が "電離放射線を扱う組織、施設、活動における安全文化：その実施方法について" と題して講演を行いました。その後、閉会式が行われ、ベストポスター賞、35歳以上の最優秀賞、若手専門家賞の受賞者が発表され、IRPA16への無料参加登録権がIRPA16組織委員会から贈られました。



**Bernard Le Guen会長とAna María Bomben氏、IRPAがモントリオール基金を通じて支援した若手専門家たちと一緒に**

中南米地域大会は、参加者数、ラテンアメリカ地域全ての国からの参加、放射線防護に関するあらゆる最新の問題を扱ったプレゼンテーションの質、国際機関の参加、参加者間の経験や情報の交換、そして何よりも大会主催者のチリ放射線防護学会 (SOCHIPRA) の真心ともてなしにより、大成功を収めることができました。



# 放射線防護の教育・訓練に関する国際会議

HIELKE FREERK BOERSMA, UNIVERSITY OF GRONINGEN

## ETRAP 2023 - オランダ・フローニンゲン

放射線防護の教育・訓練（ETRAP）に関する第8回国際会議が、2023年6月27日から30日までオランダのフローニンゲンで開催されることが決定しました。

ETRAP会議は、放射線防護の教育・訓練に関して確立された行事です。1999年にサクレで第1回が開催され、その後、マドリード（2003年）、[ブリュッセル（2005年）](#)、リスボン（2009年）、[ウィーン（2013年）](#)、[バレンシア（2017年）](#)で開催され、[2021年にはオンライン会議](#)が開催されました。

ETRAP 2023は、放射線防護の教育・訓練の提供者、学術関係者、政策立案者、放射線防護専門家、規制当局、エンドユーザーが一堂に会することを目的としています。この会議は、放射線防護の教育・訓練に関する最新の知見と進展について学び、議論する機会を提供し、さまざまな関係者間のネットワーク作りを促進するものです。ETRAP 2023の主なテーマは以下の通りです。

- トレーナーが（必要な）能力基準
- オンラインおよびハイブリッド学習：革新と得られた経験
- 能力に基づいたシステム vs. 資格に基づいたシステム
- 能力のある働き手の確保と維持
- 社会科学と人文科学の融合と公共性



フローニンゲン大学アカデミービル（著作権：UG）

Silvio Zangerini撮影

# 放射線防護の教育・訓練に関する国際会議

HIELKE FREERK BOERSMA, UNIVERSITY OF GRONINGEN

第8回ETRAP会議は、フローニンゲン放射線防護アカデミーの主催で、フローニンゲンの歴史的な中心部にある同大学のアカデミービルで開催されます。この会議は、IAEA、EUTERP、IRPAの協力のもと、フローニンゲン大学とSCK CENが主催で開催されます。

本会議の要旨を2023年1月31日までに [www.etrp.net](http://www.etrp.net) よりご提出下さい。



**ETRAP**  
27-30 June 2023  
Groningen, The Netherlands



フローニンゲン美術館



フローニンゲン市Lage der A



大講義室

最後に、2023年6月26日と27日にフローニンゲンで開催されるETRAPワークショップの直前に、第9回欧州放射線防護訓練・教育（EUTERP）ワークショップが開催されることをお知らせしておきます。このワークショップの詳細については、[www.etrp.net](http://www.etrp.net) をご覧下さい。

両イベントとも、[今すぐご登録](#)頂き、早期割引料金をご利用下さい。来年6月にフローニンゲンで皆様にお会いできることを楽しみにしております。

-Hielke Freerk Boersma（現地組織委員会委員長）





# エジプト放射線物理2022セミナーにおける

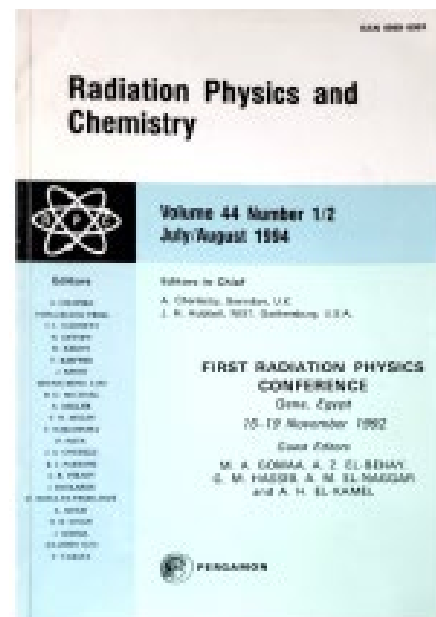
## 放射線防護活動

MOHAMED AHMED MAHMOUD GOMAA

11月、エジプト原子力庁（EAEA）長官であるAmr El-Hag Aly教授の主催で、カイロ県ナスル市のEAEA本館で2022年放射線物理セミナーが開催されました。このセミナーは2日間にわたり、8つの科学セッションで構成されました。

このセミナーの第一の目的は、1992年11月にケナ市の理学部で開催された第一回放射線物理学会の30周年を記念することでした。（ケナ市はカイロ県から南に800km、有名なルクソールから80kmのところにあります）。この会議は、国際放射線物理学会、EAEA、アシュート大学QENA分校の後援を受けて開催されました。

1992年のような早期でも、放射線防護の活動が保健物理学または放射線物理学の活動の中で発表されました。第1回放射線物理学会のプロシーディングスは、1994年に有名な科学雑誌（Radiation Physics and Chemistry）に掲載され、その編集者には高名な故John Hubble氏（NBS）が就任していた。この時、この雑誌に掲載された研究の約50%は放射線防護活動でした。



写真：1992年第1回RAD PHYS会議、J.RP&C、vol.44、1994

セミナーの第二の目的は、若手研究者に現在の研究活動を発表してもらい、代わりに招待講演者の発表から学んでもらうことを奨励することでした。セミナーの最後に若手研究者の発表が行われ、その後、今日の若手研究者が直面している問題について座談会が行われました。その中で、放射線、原子力、医学物理学に関するフリーソフトへのリンク、図書館や類似の研究所などのリソースの活用法、科学専門学会の会員になることの重要性などのアドバイスがなされました。

次回の放射線防護セミナーは、2023年にエジプト・カイロで開催する予定です。

# エジプト放射線物理2022セミナーにおける 放射線防護活動

MOHAMED AHMED MAHMOUD GOMAA



本セミナーは、EAEA委員会の1つであるエジプト国内放射線物理学ネットワーク(NNRP)が主催したものです。本セミナーには70名の参加者がありました。

第二次世界大戦後、ヨーロッパの原子力科学者は、放射線物理学や医学物理学に科学的な関心を移しました。私は1968年にロンドン大学で中性子遮蔽の分野で放射線物理学の博士号を取得しました。同様に、このセミナーでのいくつかの発表は、主に放射線防護の分野で、次のようなものでした。

1. 線源と検出器：サイクロトロン、 $\gamma$ 線分光の校正、ホールボディカウンティング、アイソトープ選択的CTイメージングなど。
2. 線量評価：放射性ヨウ素に汚染された個人周辺の計算と測定、核飛跡検出による熱中性子線量評価、陽子線治療用新規ガラスシステムの線量応答、建材の線量評価など。
3. 安全保障：NMRの安全性、地上放射線からの防護の必要性、放射線施設の安全保障の接点など。
4. その他：ナノテクノロジー、放射線遮蔽

2022年9月のIRPA会報「Advice to Junior Rad Protection staff」に私が寄稿した内容もセミナーで紹介されています。





# エジプト放射線物理2022セミナーにおける 放射線防護活動

MOHAMED AHMED MAHMOUD GOMAA

参加者全員にセミナー修了証が配布された後、現在取り組んでいる研究内容を発表した若手研究者に特別賞が授与されました。下の写真は、NNRPメダルを授与された若手研究者の方々です。



NNRPメダルを受け取る様々なエジプトの大学やセンターからの若手研究者



# AOCR6

## 6<sup>th</sup> ASIAN AND OCEANIC CONGRESS FOR RADIATION PROTECTION (AOCR6)

### About Conference

The 6<sup>th</sup> Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection (AOCR6) will be held at Mumbai, India during 07 - 11, February 2023. The Indian Association for Radiation Protection (IARP) has been serving the national and international scientific community for the past 55 years by organising international, national and regional conferences and workshops in the field of radiation protection and safety. IARP is proud to host AOCR6 for the first time in India and feels happy to welcome all the participants from around the world. More than 500 delegates including eminent international and national radiation protection professionals are expected to participate in the congress.

**07-11  
February  
2023**

Nehru Centre, Mumbai, India

For more details and latest updates please visit

[www.aocrp6.com](http://www.aocrp6.com)

### Congress Theme

Radiation safety is given highest priority at different stages of operation in nuclear, medical and industrial applications of radiation technology. In the past decade, variety of systems and methods have been developed in the field of radiation protection and surveillance including release of new ICRP publications. In view of these developments, AOCR6 is devoted to the congress theme of "Radiation Protection and Surveillance in Nuclear, Medical, Industrial Facilities and the Environment". This congress is a forum for all the stakeholders including researchers and policy makers to discuss various safety issues related to the developments in radiological and environmental safety of nuclear and radiation facilities.

### Call for Papers

Scientific Programme Committee of the 6<sup>th</sup> Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection (AOCR6), cordially invites you to submit abstract to AOCR6 to be held on 07-11, February 2023, in Mumbai, India. All abstracts must be submitted electronically through the website only (<https://www.aocrp6.com/>). Abstracts submitted via e-mail, fax or regular mail will neither be accepted nor acknowledged. All submitted abstracts will be reviewed and assigned to appropriate session. Notification on acceptance will be sent to the submitter by email.

### Important Dates

Abstract submission starts  
**10/05/2022**

Last date for abstract submission  
**30/06/2022**

Intimation of acceptance of abstract  
**15/09/2022**

Registration begins  
**5/07/2022**

Early bird Registration & accommodation request (up to)  
**15/10/2022**

On the spot registration allowed (up to)  
**06/02/2023**

### Contacts

#### Dr. M. S. Kulkarni

Convenor, Congress Organizing Committee, AOCR6  
Head, Health Physics Division  
Bhabha Atomic Research Centre  
Mumbai, Maharashtra, India.  
Email: [aocrp6@gmail.com](mailto:aocrp6@gmail.com) | Phone: +91 22 25595076  
Fax: +91 22 25505313 | Mobile: +91 9969961663

#### Dr. S. Murali

Secretary, IARP  
Radiation Safety System Division  
Bhabha Atomic Research Centre  
Mumbai, Maharashtra, India.  
Email: [mrliyengar@gmail.com](mailto:mrliyengar@gmail.com) | Phone: +91 22 25593774  
Mobile: +91 90047 73341 (WhatsApp only)  
Website: <https://www.iarp.org.in>

### Outline Structure & Topic Areas

The scientific programme of the congress will include keynote addresses, Panel Discussions, Invited Talks, Proffered Papers, Posters and Technical Exhibition. The major scientific thematic areas to be covered at the congress are listed below:

1. Foundation Topics on Radiation Protection Philosophy and Risk Estimates
2. Radiation Safety and Protection in Nuclear Facilities
3. Radiation Safety and Protection in Medical & Industrial Sectors
4. Radiation Dosimetry (External, Internal and Biological)
5. Nuclear Instrumentation and System Development
6. Environmental Monitoring and Assessment
7. Existing Exposures
8. Emergency Preparedness and Response
9. Regulatory Framework: System of Protection, Standards and Regulation.

### Guidelines for Abstract Preparation and Submission

Contributions should be brief with relevant scientific/technical details in the form of an extended abstract of one page, not exceeding 500 words. The template of the abstract can be downloaded from the AOCR6 website. The contribution must be submitted ONLINE (electronically) through the abstract submission facility of AOCR6 website ([www.aocrp6.com](http://www.aocrp6.com)) before the closing date. Abstract submitted for presentation in the congress will be reviewed independently by the members of the scientific programme committee and experts in the field. The intimation will be sent to the authors post the acceptance of abstracts. Last date for abstract is 30/06/2022. The acceptance of the abstracts will be intimated before 15/09/2022.

### Registration Details

Registration is pre-requisite for attending the conference and presenting a paper. Request for registration will be taken through online form available on website from 15<sup>th</sup> July 2022 onwards. Registration fee payable is listed below:

Type of Registration	Amount payable (INR)	
	Early bird up to 15/10/2022	Late or on the spot 06/02/2023
IARP Member	10000	12000
Senior Citizen (IARP Member)	5000	5500
Non IARP member	15000	15500
Accompanying Person	8000	8500
Student delegate (Indian)*	5000	5500
Trade delegate (Indian)	20000	25000
Foreign delegate	600 \$	650 \$
Student delegate (Foreign)	200 \$	250 \$

\* To encourage the participation of young students, financial assistance to the deserving under graduate / post graduate students of Universities will be provided subject to the availability of funds. Certificate from Head of the Institute/Department is mandatory.

### Publications

Book of Abstracts will be published during AOCR6 Congress. Manuscripts selected by our Scientific Programme Committee will be published in a peer reviewed journal.





## ニュースをお寄せ下さい！



共有したいニュースをお持ちですか？cop@irpa.net までお送りいただければ、IRPA NewsとIRPA Bulletinでご紹介します。会報の記事は通常、200～300語と画像です。

我々のSociety Spotlightでは、IRPA関連学会からの最新情報を常時募集しています。あなたの学会の近況をお聞かせください。打ち合わせ、会議、通常のイベント、または良いニュースをいつでもお待ちしております。

### 出版物に関するあなたのIRPA委員会。

IRPAコミュニケーション・オフィサー：Dave Niven

会報編集部：Dave Niven

準学会リエゾン：Michèle Légaré

ウェブサイト管理者：Dave Niven & Chris Malcolmson

ソーシャル・メディア・マネージャー：Sven Nagels & Chris Malcolmson

Media Reviewers：Sven Nagels, Young-Khi Lim, 藤田博喜

Proceedings Advisor：荻野晴之



PIANFORTEパートナーシップは、放射線防護の若手専門家のためのトラベルサポートを提供しています。詳細は[PIANFORTEウェブサイト](#)をご覧ください。2022年12月31日が申請期限となっています。なお、支援はEU諸国およびその関連国に限定されています。